

大阪市に於ける都市問題に関するアンケート調査

京都大学 学生会員 ○ 鍋木 儀郎, 伊夫 俊光雄
 佐々木 隆, 広瀬 隆三
 藤田 和子, 前田 真弓
 松下 真, 加賀 政美

はじめに

著者らは京大衛生工学科各論第一に於いて都市問題を研究テーマに選択した。以下に、1年間にわたって行なわれた大阪市に於けるアンケート調査の結果及び考察を述べる。著者らの目的の一つは「都市問題とは何か」という命題に答える事であり、アンケートを作成するに当っては、予めこの答として「住宅問題」「交通問題」「公害・環境問題」を仮定した。一方、都市の魅力として生活に便利である事、文化的・物質的に豊かである事を考えた。次にこれら二通りの要因をふまえて、住民が都市に対し持つ感情を、愛着と転居希望によって調べた。このアンケートは地図1に示された20区23地点を対象とし438通を回収した。内容については表1に示す通りである。



a. 住宅問題

(1-8)の回答を基にして住宅の大きさに対する満足度を部屋数と人数の関数として求めた。E(=部屋数/人数)が1.3と2.0のところで満足度が高い。しかし、少ないと答えた人のピークが1.0にある事から1.3は「現在のところこれで満足」という値で、2.0が「できればこれだけ欲しい」「これだけあればいい」という本来の満足であろう。満足を与える最低レベルとして1.3をとれば、(家族数+1)部屋あればたいよいことになる。

部屋数	多すぎる	満足	少ない
1	1	3	4
2	1	4	13
3	1	17	19
4	1	28	17
5	1	12	32
6	1	38	16
7	2	19	9
8	4	15	3
9	3	7	0
10	6	20	1
計	17	206	206

E	満足	少ない
0.5	2	17
0.7	2	14
0.8	12	43
1.0	23	50
1.3	28	14
1.5	19	7
1.7	14	5
2.0	29	18
2.3	4	1
2.5	14	1

b. 交通問題

通勤時間では回答者の大半が60分以内で、更に大半がまあまあ又は満足と答えている。しかし、ラッシュ時の混雑についてはかなりの人が改善を望んでいる。やはり時間的にはかなり満足しているものの、満員電車・バスにゆられて通勤している人が多い。故に公共交通機関の再検討が必要であわせて時差出勤等も考えねばならない。次に自家用車については不必要とした人が全体の2/3で自動車公害に対する市民の高い認識が現われている。これは公共交通機関の充実とも解釈されよう。車の必要理由としては(d)が多く、車の趣味的面を示している。また表にはあげていないが、中心地正では(b)が圧倒的に多く、生活から車を切り離せないようである。最後に、通勤以外では運賃の高い事を除けば全般に病たされているようだ。

選択	I-9	I-11	I-13	I-14	I-15	I-16						
回数	数%	数%	数%	数%	数%	数%						
a	20	8	57	22	173	46	53	21	143	44	153	36
b	12	49	146	56	69	16	156	63	135	41	278	64
c	11	43	58	22	33	9	36	15	156	48		
d					68	18	71	37	113	35		
e					126	33			206	63		
f									81	25		
回数	263	263	383	247	322	427						

* I-9の通勤時間についてどう思うかに対する回答

* 回答数に割った数なので、全部加えると100%にならない

I. まず、以下のアンケートにお答え下さい。

1. 性別 2. 年齢 3. 職業 4. 住所 5. 居住地の環境 6. 現在の居住地に何年間住んでおられますか 7. 家族構成 8. 現在の居住家屋の部屋数は何室ですか。また、その部屋数に満足していますか……(a)好すぎる、(b)満足している、(c)少ない 9. 通勤時間は何かくらいですか。また、現在の通勤時間について、どう思われますか……(a)時間がかかりすぎる、(b)まあまあである、(c)満足である
10. 通勤されておられる方、利用する交通機関は何ですか 11. ラッシュ時の混雑についてどう感じますか……(a)がまんできないくらいひどい、(b)がまんできるが改善を望む、(c)あまり混雑しないので満足している
12. 毎日の買物にどのような不便を感じますか……(a)不便は感じない、(b)市場まで遠い、(c)市場に品数が少ない、(d)品物の鮮度が悪い、(e)品物の値が高い 13. 通勤以外に利用されている公共交通機関(バス、電車等)に対し、どのような不便を感じますか……(a)不便は感じない、(b)停留所や駅まで遠い、(c)混雑が激しい、(d)便が少ない、(e)運賃が高い
14. 現在の生活上で自家用車が必要であると思われる理由を選択して下さい……(a)通勤に必要である、(b)営業上必要である、(c)買物に必要である、(d)レジャーのために必要である
15. 現在の生活上で自家用車が不必要であると思われる理由を選択して下さい……(a)公害のもととなるので不要である、(b)交通渋滞のもととなるので不要である、(c)交通事故を増やすので不要である、(d)経費がかかりすぎるので不要である、(e)なくても不便は感じない、(f)資源の節約の面から不要である 16. 14&15を考慮して、あなたは自家用車が必要だと思いますか、不必要だと思いますか……(a)必要、(b)不必要

II. 最近大きな問題をひき起こしている公害について

1. 居住地の周囲にどのような公害を感じますか……(a)何も感じない、(b)空気が汚れている、(c)河川・海がまてない、(d)騒音がある、(e)振動を感じる、(f)ゴミが多い
2. ゴミ焼却場が不足している現状、もしあなたの居住区内に大規模なものが設置されるとしたら……(a)絶対に反対である、(b)公害のためとは思いますが近くに設置されるのは迷惑だ、(c)自分の居住区のためだけの焼却場ならがまんする、(d)公害のためだからゴミ運搬車の頻繁な通行、悪臭、景観悪化等がまんしてもよい
3. 公害が起きたときの企業責任についてお尋ねしますが、例えば最近話題になった三菱石油の重油流出事故に於ける瀬戸内海汚染の補償についてどう思われますか……(a)企業が経営範囲を超えても全額賠償すべきである、(b)コンビナートを誘致した行政者側(国家・地方自治体)が肩がわりすべきである、(c)企業が経営範囲内でできるだけの負担をし、行政で補えばよい、(d)このたぐいの事故は、産業発展のための不可抵抗的な面もあるので補償の責任はない
4. ここ数年環境はよくなっていると思いますか……(a)よくなっている、(b)わるくなっている、(c)変わらない、(d)よいのかわるいのかわからない
5. 公害はこれからひどくなると思いますか……(a)ますますひどくなる、(b)ある程度の線でおちつく、(c)将来公害は少なくなる

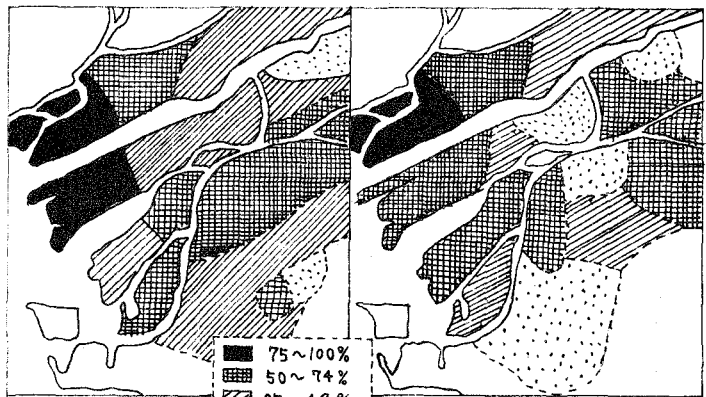
III. 都市問題について

1. 自然に触れる機会がありますか(居住区の周辺に緑がありますか)……(a)豊富である、(b)少ないがあることはある、(c)全くない
2. 都市の良さには、(a)交通の便がよい、(b)市場の便がよい、(c)職が豊富にある、(d)医療機関がすぐれている、(e)文庫施設が整っている、(f)娯楽施設が多い、(g)情報が得やすい、などがあげられますが、あなたの住んでおられる地域で充分満たされていると思われる項目に○印、またもっと改善されなければならないと思われる項目には×印を上の(a)~(g)に記入下さい。さらに「都市の都たる条件」に最も必要であると思われるものを考えに考えられている順に並べて下さい……
3. 現在住んでおられる場所に愛着がありますか……(a)愛着がある、(b)愛着がない
4. 他に住んでみたいと思われる地方があれば記入し、できれば理由を簡単に書いて下さい……
5. 4の答えとは別に、転居をお考えになっていますか……(a)考えていない、(b)考えている(約 年後)

C. 公害・環境問題

(II-1)より、身近に何等かの公害を感じている人は全回答者の91%である。大気と河川・海の公害については地図2 & 3にまとめた。公共性も必要性も高いが、イメージ的に反村され易いものをゴミ焼却場に代表させて(II-2)を作った。(a), (b)は合計57%であり、この種の施設設置の困難を示す。実際に公害問題が起きた場合の責任の所在を問うのが(II-3)である。三菱石油を取り上げたのは、その一例であり、回答を容易に得るための意図である。(c)が57%で最大で公害が起きた場合、企業と行政の相方に責任があると考えている人が過半数である。(II-4)は地域的にかなりの差で受けとられていた。全市では環境は変わっていない。(II-5)より、回答者の35は、増々公害がひどくなると考えている。(c)は非常に少ない。(II-1)より、大阪市の4では、住環境の最低条件である緑が少なく、住環境として望ましくないことがよくわかる。

選択	II-1		II-2		II-3		II-4		II-5		III-1
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	
a	401	9.80	213	35.03	241	39.33	189	30.33	33	5.27	
b	220	5.01	36.36	27.7	102	24.29	55	29.66			
c	149	3.41	37.37	22.57	130	31.28	71	20.27			
d	172	3.92	22.64	1.89	21						
e	100	2.3									
f	95	2.2									
g	35	0.8									
回答数	437		375		393		424		426		443



地図2. 空気が汚れている

地図3. 河川・海が汚れている

d. 都市の魅力

交通一般では、(II-2)の都市の良さに対する回答で(a)に○を

つけた人が65%で、ほぼ3/5の人が便利な生活を送っていると言える。又(I-12)で(a)と答えた人は54%で、(II-2)で(b)に○をつけた人は57%

であるから、過半数は市場の便の良さという都市機能、あるいは物質的豊かさに満足している。しかしこれらを除けば、(II-2)で医療機関は36%、文教施設・娯楽施設・情報の得やすさについては20%の人しか満足しておらず、この方面の都

表7. 買物に対する不便

選択	a	b	c	d	e
I-12	222	43	46	43	172
%	54	10	11	10	42

都市機能の評価	満たされる	改善を要する	都市の都市たる条件		
			1位	2位	3位
交通	282	23	228	30	32
市場	249	31	12	99	55
娯楽	77	46	19	41	38
医療	157	73	26	74	87
文教	104	99	19	39	68
娯楽	88	61	2	7	5
情報	104	42	10	21	24

表8. 都市の交通・買物の不満と愛着

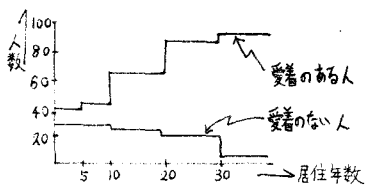
母集団	(I-9)	(I-12)	(I-9)∩(I-12)	(I-13)	(I-9)∩(I-13)	(I-12)∩(I-13)	(I-9)∩(I-12)∩(I-13)
A	428(100)	144	153	96	189	81	209
B	322(75)	111(77)	115(75)	67(70)	27(67)	56(69)	152(73)
C	106(25)	33(23)	38(25)	29(30)	62(33)	25(31)	57(27)

(I-9): I-9で(a),(b)と答えた人 (I-11): I-11で(a),(b)と答えた人
(I-13): I-13で(a),(b),(c),(d),(e)と答えた人 (I-12): I-12で(a),(b),(c),(d),(e)と答えた人
母集団: III-1の回答者
A=B+C B: 愛着を感じる人 C: 愛着を感じない人

表9. 公害・環境と愛着

母集団	(II-1)					(II-4)	(II-5)	(I-4)∩(II-5)
	大気	河川・海	騒音	振動	ゴミ			
A	428	221	146	172	105	91	330	382
B	322(75)	160(72)	107(73)	129(75)	81(77)	68(75)	254(77)	289(76)
C	106(25)	61(28)	39(27)	43(25)	24(23)	23(25)	76(23)	93(24)

(II-1): II-1で各公害を答えた人 (II-4): II-4で(b),(c),(d)を答えた人
(II-5): II-5で(b),(c)と答えた人 母集団: III-1の回答者
A=B+C B: 愛着を感じる人 C: 愛着を感じない人



グラフ1. 居住年数と愛着

市機能の整備の遅れがわかる。即ち文教・娯楽等の文化的豊かさは、あまり満たされていない。

e. 愛着と転居

表8より全体としてとらえれば、都市機能に不満がない事は、愛着がもてることに結びつく。個々の機能は必ずしも愛着に結びつかない。表9より、公害を感じ環境に危機感を持っている人は、愛着のない人に限らない。グラフを見ると、都市の便利さや公害に対する危機感よりも、居住年数の方が愛着と関係が深いことがよくわかる。

f. 市民の意見

(Ⅳ)に回答した人は164人で、まとめると右の表10のようになる。予想以上に交通問題への関心が高い。都市の精神的荒廃や、中心部の過疎化への問題指摘が99いことに注目したい。

都市問題と云っても、交通・住宅問題から公害問題まで99岐にわたり、その各々の問題が政治的・経済的・社会的問題を内包している。この様に、複雑に入り組んだ都市問題の実態を把握する事は

困難であり、今回のアンケート調査も、その一面を写したに過ぎない。この報告書が、都市問題を考える際に、何らかの参考になれば幸いである。

表10 「公害及び都市問題に関する意見」の要約

()内は人数

1. 都市環境の整備を求めた人 (計60人)
(i)公園や緑をもっと作ってほしい(16人)。(ii)長期的・広域的都市計画を作ってほしい(12人)。(iii)道路を整備してほしい(9人)。(iv)公共輸送機関を充実してほしい(8人)。(v)下水道を整備増設してほしい(5人)。(vi)安価で条件のよい住宅の供給(4人)。(vii)看板等整備して都市を美化してほしい(3人)。(viii)文教施設をもっと作ってほしい(1人)。
2. 公害並びに環境の劣化を訴えた人(計60人)
(i)企業の公害に対する姿勢の改善を望む声(21人)。(ii)行政の取締り強化、責任を求めるもの(12人)。(iii)ゴミや町のきたなさを訴えたもの(5人)。(iv)食品公害の心配等(5人)。(v)空気がきかない、喘息をおこしてしまう(4人)。(vi)川がきたない(特に小マダ川)(3人)。(vii)焼却場の管理の悪さと訴えた声(2人)。(viii)日照権(2人)。(ix)飲料水の水質が心配(京都の下水であるという点)(2人)。
3. 交通公害についての意見(計58人)
(i)とにかくマイカーを規制すべきだとする人(計27人)。
(乗り入れ制限、免許取得制限等取締り強化(12人)。
(税金up(4人)。販売制限をメーカーに期待(3人)。
(ii)排気ガスを何とかしてほしい(13人)。(iii)駐車違反を訴えているもの(8人)。(iv)騒音・振動がひどいと訴えるもの(6人)。(v)交通事故を減少させてほしい(2人)。(vi)車優先社会を嘆く声(2人)。
4. 都市民の精神的荒廃等(計34人)
(i)都市の精神的荒廃・風俗のみだれ(16人)。(ii)個人が義務と責任を感じて公害にとりくむべきだ(10人)。(iii)公害反対運動は私権の乱用であり、住民のイゴだ(8人)。
5. 中心地の過疎化について(計4人)
6. 都市問題の原因が「過密」にあるとした人(計4人)
7. 公害が気にならない、しかたない、満足であるとした人(計7人)

1976年 3月